

今回は、「ストレスに強くなる方法」として、認知行動療法をご紹介しました。今回は、NHKで特集されました、うつ病の最新の科学的検査方法等について報告いたします。これまで、うつ病の診断は、医師の問診によって行われてきたため、医師の経験により、バラツキがありました。しかし、新しい診断方法が出てきました。現在では、この治療を行う病院は、半年から1年の受診待ちのようです。(NHK特集2/12/2012放送「ここまできた「うつ病治療」)

ストレスと、その影響

賢い本人の対応の仕方

高齢期のうつ対応

企業の対応
① ② ③

うつに強くなる方法

最新の科学的検査と治療

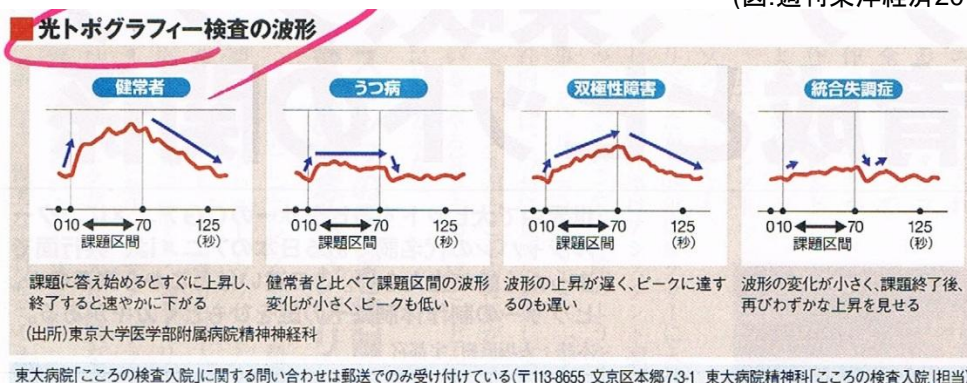
うつ病の診断はこれまで、医師の問診によって行われてきたため、医師の経験により、診断にバラツキがありました。例えば、「そううつ病(双極性障害)」の人が診断を間違えられて「うつ病」と診断され、抗うつ薬を飲み続けると、薬で気分が高揚しすぎ、場合によっては自殺行為に走ることがあるようです。

新しい検査は、光トポグラフィーというものです。脳のある特定の部分の血液の流れを調べることで、「うつ病」「そううつ病(双極性障害)」「統合失調症(旧名 精神病)」の判断がかなりの確率で診断できるようです。まだ先進医療として研究しているので、全国には14か所の病院等でしかできないですが、いずれ実績ができ拡大していくことでしょう。

テレビの映像では、病名がはっきりしたことで、治療に前向きになった人が紹介されました。また10年以上、そううつ病と誤診され、薬物療法で改善しなかった人は、この装置でうつ病と診断され、正しい薬を服用したことで回復していった様子が出ていました。

当事者にとっては、誤診によって自分や家族の生活が台無しになっていたものが、遅まきながら活路が見えてきたことは大変よいことです。この装置と診断できる医師の拡大、そして「心の病気」と称したものを払拭したいものです。

(図:週刊東洋経済2010.7.24)



② 画期的な治療方法TMSの出現

米国では、経頭蓋磁気刺激(TMS)という装置を利用した、画期的な治療方法が紹介されていました。これは、脳の中にある「扁桃体(不安や恐怖や悲しみをつかさどる場所)」を抑制するDLPFCと呼ばれる部位に刺激するもので、毎日40分間、1カ月治療することで約70%の人に改善が見られたというものです。

テレビの映像では、患者の顔の表情は、治療を受けてから豊かになっていく様子が見え、はっきり分かりました。残念ながら、日本ではまだ治療装置と医師はいないようですが、これも光トポグラフィーと同様、うつ病等の病気診断と治療に大きく貢献するものと思われれます。

●お問合せはこちらまで

info@kitawel.com

Welfare

北村 社会福祉士事務所(北村 弘之)
〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目7-7
TEL:045-924-1777 http://www.kitawel.com